

● 気になる症状が生じた場合の相談先



HPVワクチン接種後に気になる症状が生じたら…

- 注射した部分の痛み、腫れ、赤み
- 注射した部分以外のところで痛みや手足のしびれ・ふるえといった気になる症状や体の変化がある など



接種医療機関

まずはHPVワクチンの接種を受けた医療機関を受診し、接種を行った医師に相談しましょう。



協力医療機関

山梨大学医学部
附属病院

HPVワクチン接種後の気になる症状に関する診療について、協力医療機関（山梨大学医学部附属病院）を受診することができます。

協力医療機関の受診については、接種を行った医師又はかかりつけ医にご相談ください。

その他、HPVワクチンに関する不安や疑問、困ったことがあれば、小児科医や産婦人科医に相談しましょう。
山梨県またはお住まいの市町村に相談することもできます。

医療、生活、救済制度等に関すること

山梨県福祉保健部健康増進課
がん対策推進担当
TEL：055-223-1497

または
お住まいの市町村の予防接種担当課

教育、学校生活等に関すること

山梨県教育庁保健体育課
TEL：055-223-1785

ワクチンについて
詳しく見る ▶



子宮頸がんは、子宮の入口にできるがんです。
20代から患者が増え、日本では毎年約1.1万人が発症し、
約3,000人が亡くなっています。

子宮頸がんの原因の多くがHPV（ヒトパピローマウイルス）による感染です。
性交渉により感染する可能性がありますが、ワクチンで予防できます。

これからの健康のために、HPVワクチンについて正しい情報を学び
ワクチンの接種を考えてみませんか？

● HPVワクチンの効果

現在、日本で受けられるHPVワクチン（9価ワクチン）は子宮頸がんの原因となるHPVの80～90%を防ぎます。

また、子宮頸がんになる手前の状態（前がん病変）が減るとともに、がんそのものを予防する効果があることもわかってきています。



● HPVワクチン接種後に起こるかもしれない症状

ワクチンの接種を受けた部位に痛みや腫れ、赤みなどの症状が起こることがあります。また、まれですが、重い症状※が起こることがあります。

※ 重いアレルギー症状（呼吸困難やじんましんなど）や神経系の症状（手足の力が入りにくい、頭痛・嘔吐・意識の低下）

接種後に気になる症状が出たら、医師や周りの大人にHPVワクチンを受けたことを伝えて、相談してください。

● HPVワクチンの接種

日本では、小学校6年生～高校1年生相当の女性を対象に、HPVワクチンの公費接種を行っています。

HPVワクチンは16歳までに接種するのが最も効果が高いことが認められています。

ワクチンの種類や年齢によって接種スケジュールは異なりますが高校1年生の3月31日までに接種が終わるよう、計画的な接種を検討しましょう。

9価ワクチン（シルガード®9）の一般的な接種スケジュール



※接種スケジュールについては接種する医療機関の医師にご相談ください。
なお、いずれの場合も1年以内に接種を終えることが望ましいとされています。

● ワクチン接種の流れ

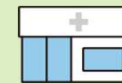
1 予診票の確認

定期接種対象者の方には市町村から予診票が交付されます。ワクチン接種に必要なので、お手元がない場合は、お住まいの市町村に問い合わせましょう。



2 医療機関を選ぶ

HPVワクチンを接種する医療機関を探しましょう。ワクチン接種ができる医療機関は市町村のホームページに掲載している場合があります。



3 予約する

医療機関に連絡をしてワクチン接種の予約をしましょう。予約の際は、過去のワクチン接種について確認する場合もあるので、母子健康手帳も準備しましょう。



4 医療機関に行く

事前に予診票に必要な事項を記入した上で、医療機関に行きましょう。予診票と一緒に母子健康手帳も必ず持参してください。



5 医師による問診

ワクチンを打つ前に問診がありますので、他のワクチン接種の予定がある場合や、過去のワクチン接種で体調不良があった場合などは必ず伝えましょう。



6 ワクチンを接種する

ワクチンは座った状態で横になって接種します。接種後は医師の指示に従い安静にしましょう。接種は2回または3回必要なため、次の予定も確認しましょう。



※ 接種時の注意事項 ※

痛みや緊張等によって接種直後に一時的に失神や立ちくらみ等が生じることがあります。接種後30分程度は安静にしてください。また、接種を受けた日は、はげしい運動は控えましょう。

● 20歳になったら検診を受けましょう

子宮頸がん予防にワクチンは効果的ですが、がんを100%防げるわけではありません。

初期の子宮頸がんは自覚症状がほとんどないため、がんを早期発見するために、ワクチン接種の有無に関わらず、20歳になったら子宮頸がん検診を定期的に受けることが大切です。

子宮頸がんを予防するために…

HPVワクチンで
HPVの感染を予防



予防しきれないがんを早く見つけるために…

子宮頸がん検診で
早期発見・治療